



年 組 名前

道新でワークシート

段ボールベッド設置 / 非常食試食

旭岳噴火想定 住民ら避難対応体験

【東川】大雪山系での噴火に備えて12日に行われた防災訓練は、町内の公共施設や旭岳温泉などを会場に、住民ら約50人も加わり対応を確認した。参加者は避難所で必要な段ボールベッドの組み立てを体験するなど、いざという時に備えていた。

訓練で検証した「大雪山火山避難計画」は、噴火規模に応じて三つのケースを設定。中には冬季に融雪型火山泥流が旭岳温泉に到達すると予想するものもある。今回の訓練は、午前9時に旭岳が噴火し、同15分に噴火警戒レベルを1から4（高齢者等避難）に引き上げ、登山客の負傷や温泉街への噴石の飛来が発生したという想定で行った。

避難所に指定された町第2地区コミュニティセンター



段ボールベッドを組み立てる住民（宮永春希撮影）

1には町民45人が集まった。道職員による防災講話で避難所運営の留意点などを教わった後、実際に段ボールベッドを作り、寝心地

や強度を確かめていた。キトウシ自治振興会長の田代晴夫さん(70)は「一度覚えれば簡単に作れるし、互いに教え合える」と話した。非常食の試食も行われ、1箱50人前入りのアルファ米にたっぷりの湯を注ぎ、完成させた。町中心部に住む A さん(63)は、知人に興味を持ってもらおうと交流サイト(SNS)で共有するための写真を撮影。「大きなやかんでお湯を入れる必要があるの、助け合いが大切だと感じた」と実感を込めた。旭岳温泉での訓練には、宿泊施設やロープウエー運営会社の従業員計5人が参加し、避難誘導の注意点や布を使った応急手当てを教わっていた。旅館で働く B さん(43)は「落ち着いた対応ができるよう、他の従業員にも共有したい」と話していた。

(和泉優大)

2022年10月13日（木）朝刊 旭川・上川版 17ページ（記事は再編集しています）

①訓練（くんれん）では、どのようなことを行いましたか。

②地域（ちいき）で防災訓練（ぼうさいくんれん）を行うよさは何だと思いませんか。